

松江農林高等学校 令和5年度 学校評価報告書

大項目	小項目	分掌	目標	取組指標	成果指標	自己評価		委員評価	
						評価	評価概況と次年度への改善策等	評価	コメント
A 安全の保障	(1)人とかかわり・規範意識・社会性	生徒指導部	ルールやマナーを意識し、自分で行動を選択でき	登校指導や自転車の鍵かけ指導をおこなう。	登校指導の回数 無施錠の指導を受けた生徒の延べ数 携帯電話の管理と使用に関する指導を適宜行う。 服装指導を各学期おこなう。	登校指導の回数 無施錠の指導を受けた生徒の延べ数 指導により身だしなみが改善した生徒の延べ数	A	携帯電話使用は、目標値を大きく超えた。次年度からルールを守るよう働きかける。服装指導は、多くの生徒を改善できたが、違反者が多くいることが問題点と考える。言われて正すから、自ら正す態度を育むことが大切である。	A ・ルールやマナーについては、達成できていない理由や目標の設定が正しいのか検討が必要である。 ・携帯電話の管理と使用についての評価が低いようだが、規範意識については生徒の自治によるお互いの声掛け、啓発できるような仕組みづくりを工夫してほしい。 ・社会人になるときの基礎となるものを引き続き大切にしてもらいたい。 ・教職員が細やかに生徒に接している様子や、生徒間の話し合いが活発な様子がうかがえる。
		人権教育部	自他の人権を尊重し合う豊かな人間関係の形成の支援に努める。 生徒の実態に即した人権教育、道徳教育を推進する。	学校行事(球技大会)をとおして、クラス連帯感を高める。 部活動紹介や、各部のPR活動を推奨し、入部率を上げる。	学校評価アンケートで、いじめアンケートの効果について肯定的な回答をした生徒の割合 学校評価アンケートで、人権教育に関するHR活動の効果について肯定的な回答をした生徒の割合	A A	いじめに関するアンケートの回答率を上げるよう働きかける。 生徒の実態に合ったHR活動になるよう、学年会と内容を検討・修正をする。		
		環境土木科	規範意識を高め、粘り強く学習に取り組む姿勢、社会人としてふさわしい道徳感や多様な仲間と協力し学習することができる。	実験・実習において他の生徒と協力して学習に取り組むことができた。	授業評価において、他の生徒と協力して学習に取り組むことができたと感じる生徒の割合	A	授業と実習の中で、複数の教員が指導にかかわることで、個別に細かな指導ができたことが高い評価につながった。一方、学習内でケガや教材・機材具取扱いなど規範意識の向上が必要である。		
		総合学科共通	自分とは異なる考え方や意見を受け入れ、自分の考えを伝えることができる生徒の育成	他人の意見を受け入れ、柔軟性をもちながら、自分の意見を伝えることができる態度育成し、チームで活動する素地を形成する。	グループでの話し合いや発表で、意見の異なる人の話も受け入れ、自分の意見を発表することができたか。	A	授業等で話し合いをする機会が多くあり、多くの生徒が協働活動は得意であるように見える。「よくできた」は68.1%である。		
		1年学年会	基本的な生活習慣の定着を図り、自他を尊重し合う良好な人間関係を構築する。	場にに応じたふるまいができる。挨拶、言葉づかい、服装、身の回りの整理・整頓など適切にできる。	服装指導で態度を守れている生徒が95%以上であったか。	B	スカートの短さや化粧はいたちごっこである。		
		1年学年会	基本的な生活習慣の定着を図り、自他を尊重し合う良好な人間関係を構築する。	諸活動をととして他者と関わり、豊かな人間関係を育成する。	部活動の入部率が90%以上であったか。	B	部活動で日々の練習に励むことにも価値があるが、外部の活動に関わる生徒もおり、様々な場面で豊かな人間性が育まれていると感じた。		
	(2)健康・安全管理	保健部	生徒自らが、心と身体の健康に努め、自己管理できる能力を育成する	個々の体調管理の徹底 保健室と関係各所との連携 適切な個別支援を提供	生徒の健康観察シート入力割合 各学年部会に保健部員の参加 個別支援の不提供による不登校傾向となった生徒の数	B B	コロナが5類に移行し、健康管理の意識が緩んだ傾向がみられた。3年続いた義務的な健康調査から解放されたことも要因と考える。次年度は習慣化するように活動したい。 モップ化は予算の関係上1階分が限界だったので2年で完成を目指す。生徒保健委員会の活動は次年度の課題としたい。		
		農場部	実験・実習をとおして農業教育を推進する	安全管理をおこない事故のない実験・実習を行う	実験・実習中に起こったケガ等の数	B	実習中に生徒が転倒し、骨折した事案が1件認められた。危険を予測する能力をばくむとともに、刃物類の使用、機械操作・農業使用、食品安全管理などの知識技能の習得も引き続き必要である。		
		環境土木科	規範意識を高め、粘り強く学習に取り組む姿勢や、社会人としてふさわしい道徳規範や、多様性のある仲間と協力し学習することができる。	実験・実習において、安全項目を確認し機械等を正しく取り扱い、破損や粉失をなくし、ケガなどによる保健室利用がなかった。	授業評価において、安全に配慮され、学びやす学習環境であったと感じる生徒の割合	A	授業と実習の中で、複数の教員が指導にかかわることで、個別に細かな指導ができたことが高い評価につながった。一方、学習内でケガや教材・機材具取扱いなど規範意識の向上が必要である。		
		食品系列	教員間の連携を密に図り、安全・安心な実習を実施する。	生徒が事故なく実験・実習を行うとともに異物混入等の食品の安全管理を徹底する。	ケガ・事故の発生回数	C	製造時に使用する機器のトラブルによりこの値となった。生徒への事前から実習中の指導・確認を徹底し、事故を防止する。		
		1年学年会	基本的な生活習慣の定着を図り、自他を尊重し合う良好な人間関係を構築する。	心身の調子を整えて、集団生活に向かうことができる。	学年全体の出席率が99%以上であったか。	B	家庭環境等からの心身の不調を抱える生徒は少なくない。		
		B 学びの保障	(1)生徒の主体性	教務部	生徒にとって魅力ある学習活動を展開する学校を目指す。	授業改善を深化させる	生徒による授業アンケート項目(6)「自分は主体的にこの授業に参加していたか」の評価平均が90%以上	A	
図書研修部	生徒主体の図書委員会活動を推進する。			図書委員長等を中心にして、生徒の意見やアイデアを取り入れた図書活用イベントを企画・実施する。	生徒主体の図書館イベントの実施回数	B	生徒面談週間の待ち時間をねらったが参加者が少ないのが課題。次年度はHR活動での利用を働きかける。		
農場部	課題研究の高度化や学校農業クラブ活動を活性化させ主体的に学ぶ姿勢を育成する。			農業クラブ活動を活性化し、学習活動を行う	県大会における最優秀の数	A	鑑定競技(造園)、意見発表(Ⅲ類)で最優秀を獲得した。今後とも鑑定競技やプロジェクト発表など、生徒のモチベーションを高める指導が必要である。		
環境土木科	課題解決に向けた目標設定ができ、計画的に物事に取り組み、結果に対して適切に考察することができる。			(1)取得すべき資格試験を自ら選定し、合格に向けて意欲的に学習することができたか (2)各授業や校外学習の提出課題や事後レポート作成に真摯に取り組む成果をあげることができたか	(1)各種資格試験に合格した生徒の割合 (2)指定された課題・レポートの提出された割合	C C	3年生進路決定後の資格試験は合格率が低かった。新・決定後の必要性や資格の価値などを指導が必要がある。 classroom経由でのレポート提出の機会を増やしたが、77.7%と低い提出状況だった。まだ手書きのレポートの提出率は高いため、提出状況のこまめな確認と声掛けを心がける。		
総合学科共通	系列や科目等の選択に主体的に取り組む生徒の育成			生徒自身が、進路希望等に照らし合わせて系列や授業の選択に主体的に取り組むよう支援する。	生徒が自身の進路選択に合わせて、有効な選択ができたか。(アンケート調査・面談等)	A	選択科目の定員等の関係で、科目変更必要があった。できるだけ生徒の希望が叶うような科目の組み合わせも必要である。「よくできた」は78.2%であった。		
(2)授業改善	地域系列		日々の生活で小さな目標を自主的に設定し、達成する過程を通じて自ら成長できる生徒の育成	日々の学習や将来について、目標を設定するきっかけをつくり、1人ひとりの目標達成を支援する。	小さな目標を自ら設定し、その解決に向けた努力を積み重ねることによって成長することができたか。(アンケート等)	A	継続した努力が苦手な生徒や自分に厳しい生徒は評価が低く考えられる。「よくできた」は40.3%であった。		
	教務部		新学習指導要領に対応した評価の在り方を構築する。	授業と評価の一体化を進めるためにルーブリック作成を推進する。	ルーブリック作成に関する教職員研修を実施する。	A	研修を実施したことで、授業と評価の一体化の共通理解が図られた。今後、よりよい評価に向けた工夫や情報提供をしていく。		
	生物生産科		農業に関する学習をとおして協働的に取り組む態度を身に付ける。(チームワーク力)	発信力、傾聴力、柔軟性の定着と向上を目指し、下記の取り組みを実施する。 ・対話的な学習場面を効果的に取り入れる。 ・友人と協働して学習する場面を効果的に取り入れる。	アンケートにおいて、「協働的に取り組む態度」について肯定的に評価した生徒の割合により評価する。	A	授業や実習で、グループワークやディスカッションなど、生徒同士が関わりを持つ学習場面を設定したこと等が肯定的な評価につながる要因になった。対話的な学習や協働的な学習を苦手とする生徒へは、丁寧な個別支援を継続したい。		
	福祉系列		実習及び体験的学習を充実させ、生徒が基礎的な知識・技能を習得・活用する力を身につける。	定期的な小テストや実技テストを実施する。 外部講師による特別講義、介護技術指導などの活動を実施する。	小テストと実技テストの実施回数 特別講義、介護技術指導の実施回数	B A	各授業や単元ごとに振り返りや理解度を把握できるように実施した。 学校アシスタントとして講師を依頼し年間を通して講義や実技指導を実施した。		
	教務部		教員の努力の成果が出ていると感じる。これまで以上に教員の使命として意識を高く持ち、チームで取り組んでいきたい。 ・生徒同士が関わりを持つ学習場面を設定されたことはとても有効な取り組みだ。対話学習が苦手な生徒への支援を期待している。						

松江農林高等学校 令和5年度 学校評価報告書

大項目	小項目	分掌	目標	取組指標	成果指標	自己評価		委員評価						
						評価	評価概況と次年度への改善策等	評価	コメント					
(3) ICT活用	教務部	生徒にとって魅力ある学習活動を展開する学校を目指す。	生徒が主体的に学習に取り組む態度を育むために、ICT機器を活用する。	Classroom活用状況アンケートにおいて、「Classroomを活用していない」という授業担当者の割合が0%	Classroom活用状況アンケートにおいて、「Classroomを活用していない」という授業担当者の割合が0%	B	各授業者がICT機器を活用し、魅力ある授業作りに取り組んだ。授業力向上やグランドデザイン実現に向けた授業研究の場が、魅力ある学習を創出する機会となる。今後も生徒主体的の学びを進める。	B	・まずは教員が学ぶ必要があるのかもしれない。施設設備を整え、研修会の実施などから教員のアレルギーをなくしたい。					
						図書研修部	ICTを活用した授業を互いに公開・見学し、授業づくりを学び合う。			互見授業(公開1回、見学2回)により、他者の授業づくりの良さを見付け、自己の授業改善に役立てる。	ICTを活用した互見授業の実施率	B	実施が3学期に集中すると見学しにくくなる。次年度は互見授業月間を設ける教科会で計画するなど考えられる。	
						食品系列	魅力ある授業の展開			ICT機器等を用いて分かりやすい授業を行うことで、生徒の興味・関心を高める	アンケートにおいて、食品系列の授業に対する興味・関心が高まったと答えた生徒の割合。	B	ICT機器の使用頻度は、教員や授業により異なり、系列内で生徒へ重点的事項については、系列共通で示し方(ICT)を検討する必要がある。	
(4) 魅力化推進	魅力化推進室	課題研究の高度化	校内における新規性・社会性・科学性のある研究の推進	連携研究に取り組んだ数	連携研究に取り組んだ数	A	島大、大根島、企業との連携を積極的に行った。	A	・県内大学への進学者が近年になく多かった。地域や産業界との連携、また島大や県立大との高大連携など魅力化事業の成果が表れている。 ・今年度は今まで以上に生徒のコミュニケーション能力の育成にポイントを置いた取り組みが印象に残った。 ・教員の努力が伝わった。今後も地域との連携を継続して欲しい。					
						農産部	高大・地域連携学習の推進・島根大学・島根県立大学との連携			学科・系列の特色を生かした連携事業の推進	四年生大学への合格(島根県内大学への合格)	A	四大への進学者が多かった。	
C 進路の保障	(1) 生徒の主体性	進路指導部	生徒が自身の変化のあり方を客観視し、自分の個性や適性を意識できるようにする。	キャリアパスポート内で、生徒が自分自身のあり方についての振り返りを2回以上行う。	キャリアパスポートでの振り返りを行った回数	A	就職者については応募前見学の参加、進学者についてはオープンキャンパスや各学校のセミナーへの参加を一層促したい。	A	・公務員も含めた就職者の95%が県内就職となっており、地域人材の確保に繋がっている。 ・近年は、学ぶ意欲さえあれば、多様な進路選択があるので、アンテナを高く張って進路情報をつかみ、足を運んで自己判断するように指導してほしい。 ・服装については、どう自覚させるかが難しい。なぜそれを守る必要があるのかを生徒に丁寧に説明する必要がある。					
						地域系列	校外学習や地域との連携に際し、その場にふさわしい挨拶や服装、態度ができる。			授業を始め、学校生活全般で、社会人として必要な挨拶やその場にふさわしい服装や態度ができる。	年度末アンケートで、授業や様々な学習活動で、その場にふさわしい服装や態度ができていく割合	B	65%の生徒が服装や態度について肯定的にとらえている一方、35%は否定的である。引き続き声掛けが必要である	
		2年学年会	基本的な生活習慣の定着を図り、自他を尊重し合う良好な人間関係を構築する	個人又は集団での時間管理ができる	個人又は集団での時間管理ができる	生徒アンケートで授業の開始前に着席できたと回答した割合	生徒アンケートで授業の開始前に着席できたと回答した割合			A	基本的な生活習慣について、今後も指導を継続していく。			
										場に合わせた挨拶や言葉づかいができる	生徒アンケートで、場に合わせた挨拶ができた割合	生徒アンケートで、場に合わせた挨拶ができた割合	A	基本的な生活習慣について、今後も指導を継続していく。
													規則やルールを守り、身の回りの整理・整頓ができる	生徒アンケートで、規則やルールを守ることができた割合
										諸活動をとおりて他者と関わり、豊かな人間関係を築くことができる	生徒アンケートで、学校行事や部活動などの諸活動に積極的に参加した割合	生徒アンケートで、学校行事や部活動などの諸活動に積極的に参加した割合		
		3年学年会	自他を尊重し合う豊かな人間関係を築くとともに、社会人として必要なマナーや規範意識を身につける。	集団生活をとおりて、自分の行動が他者に与える影響について主体的に考え、行動をより良く改善し、社会性を育む。	生徒・保護者による学校評価において、時間や校則が守れた、と感じる生徒・保護者の割合	生徒・保護者による学校評価において、時間や校則が守れた、と感じる生徒・保護者の割合	生徒・保護者による学校評価において、時間や校則が守れた、と感じる生徒・保護者の割合						C	学年全体で遅刻数が多く、服装・頭髪の乱れを散見したことから評価が低いと考える。自覚を改善に繋げられないことが反省点。
										自らの進路実現に向け、主体的に学習に取り組む、自分で進路選択をすすめる。	授業の中で疑問に感じたことを調べたり、自身の考えを他者に伝えたり、他者の考えを聞いて進路ガイダンス、進路学習会、企業ガイダンスなどを計画的に行う。	生徒による学校評価において、積極的に学習活動に取り組む成長できた、と感じる生徒の割合	生徒による学校評価において、積極的に学習活動に取り組む成長できた、と感じる生徒の割合	生徒による学校評価において、積極的に学習活動に取り組む成長できた、と感じる生徒の割合
		進路指導部	生徒や教職員が「進路の手引き」を用いて進路学習や進路実現に役立てることができるようにする。	「進路の手引き」を全面改訂し、生徒や保護者、教職員が生徒の進路について考える際に使いやすくなる。	進路について考える際に「進路の手引き」が役立つと感じた人の割合	進路について考える際に「進路の手引き」が役立つと感じた人の割合	進路について考える際に「進路の手引き」が役立つと感じた人の割合							
										生物生産科	農業に関する学習をとおりて、何事にも粘り強く取り組む力を身に付ける。(アクション力)	主体性、選択する力、働きかけ力、実行力の定着と向上を目指し、下記の取り組みを実施する。 ・授業で学んだ知識を「技」として発揮する活動を行う。 ・研究や調査、栽培管理等において自分の考えを試す活動を行う。	アンケートにおいて、「粘り強く取り組む力」について肯定的に評価した生徒の割合により評価する。	アンケートにおいて、「粘り強く取り組む力」について肯定的に評価した生徒の割合により評価する。
食品系列	生徒の適性に即した進路指導を早期から行う。	課題研究や企業見学を通し、地元企業、上級学校との連携を深め、進路選択に役立てる。	食品に関連する企業への就職または関連性のある上級学校への進学率の割合	食品に関連する企業への就職または関連性のある上級学校への進学率の割合	食品に関連する企業への就職または関連性のある上級学校への進学率の割合	C	保育や地域政策の関連学科への進学、公務員等進路先が多岐にわたり低い評価となった。食品関連の魅力を感じる機会を増やすことで、食品業界を志望する生徒を増やしたい。							
						地域系列	校外の企業や、各県機関との連携を図る。	進路希望状況を踏まえ、進路希望に合わせた地域との連携を持つことができる。	年度末アンケートにおいて、課題研究等の発表において、地域との関わり合いを持って答えた生徒の割合	年度末アンケートにおいて、課題研究等の発表において、地域との関わり合いを持って答えた生徒の割合	年度末アンケートにおいて、課題研究等の発表において、地域との関わり合いを持って答えた生徒の割合	A	課題研究について、積極的に取り組んだ生徒が多かった。地域とのかかわり方について、改善していきたい。	
1年学年会	主体的に学習に取り組む態度を育て、個に応じた進路指導に努める。	各教科担当と連携を図りながら学習習慣の確立に努め、基礎的な学力の定着を図る。 教員間との情報共有に努め、生徒一人一人に応じた進路指導をおこなう。	定期テスト1週間前から学習時間平均3時間以上確保できたか。 各学期生徒面談ができたか。 各クラス面談実施率が100%となったか。	定期テスト1週間前から学習時間平均3時間以上確保できたか。 各学期生徒面談ができたか。 各クラス面談実施率が100%となったか。	定期テスト1週間前から学習時間平均3時間以上確保できたか。 各学期生徒面談ができたか。 各クラス面談実施率が100%となったか。							B	個人間格差が大きい。	
						2年学年会	主体的に学習に取り組む態度を育て、個に応じた進路指導に努める。	各教科担当と連携を図りながら学習習慣を確立し、学力の向上を図る。 教員間との情報共有に努め、生徒一人一人に応じた進路指導を行う	生徒アンケートで、定期試験前に家庭学習時間を1日平均3時間以上確保できたと回答した割合	生徒アンケートで、定期試験前に家庭学習時間を1日平均3時間以上確保できたと回答した割合	生徒アンケートで、定期試験前に家庭学習時間を1日平均3時間以上確保できたと回答した割合	B	1年次よりはよくなっているが、まだまだ取り組みが甘い。もう少し目標を高く設定したい。	
3年学年会	自らの進路実現に向け、主体的に学習に取り組む、自分で進路選択をすすめる。	生徒の希望する進路実現に向けて、個別の面談を必要に応じて実施する。 課題研究の高度化を図るために、高大連携学習を推進する。	生徒1人当たりの面談のべ回数	生徒1人当たりの面談のべ回数	生徒1人当たりの面談のべ回数							B	各担任の適切な面談実施、学校全体で進路実現に向けて取り組めた。	
						総務部	松農発表会や学校説明会、体験入学、HPなどを通して、本校の活動を効果的に紹介する。	HPや体験入学を活用し、PR活動に努める。 ・わかりやすい資料を使って学校説明を行う。	昨年度並みの体験入学や様々なPR活動をとおりて、志願倍率が1倍を維持する。	昨年度並みの体験入学や様々なPR活動をとおりて、志願倍率が1倍を維持する。	昨年度並みの体験入学や様々なPR活動をとおりて、志願倍率が1倍を維持する。	B	松江市・安来市・雲南市の中学校で、要望のあった全ての学校に対して、高校説明会を行った。昨年度13校から今年度25校に増やしたが、昨年度並みの志願者獲得にはつながらなかった。	
総務部	PTA活動の充実を図り、保護者主体の取組みになるよう工夫する。	・総会、PTA活動の日、収穫祭での保護者の参加を促し、保護者中心の運営を行う。	総会、PTA活動の日、収穫祭で保護者の30%以上の参加を目標にする。	総会、PTA活動の日、収穫祭で保護者の30%以上の参加を目標にする。	総会、PTA活動の日、収穫祭で保護者の30%以上の参加を目標にする。							C	PTA総会の出席者は70名であった。また、1・2年生面談と3年生集会の参加者は85名であった。面談や集会だけでなく、議決機関である総会への参加も呼びかけていきたい。	
						魅力化推進室	校外へのPR活動の推進	中学校への説明、体験入学、松農発表会、進路説明会、ホームページなどとおしてPR活動を行う。	積極的に取り組むことができたか	積極的に取り組むことができたか	積極的に取り組むことができたか	A	ホームページに積極的な情報をすることができた。	
福祉系列	生徒の学習を地域へ積極的に情報発信を行い生徒の達成感と肯定感を高める	魅力化推進室との協力、本校HPの積極的な活用を行う。	HPへの掲載回数	HPへの掲載回数	HPへの掲載回数							B	校外学習や交流学習の様子などホームページに掲載した。	
						D 情報発信	総務部	PTA活動の充実を図り、保護者主体の取組みになるよう工夫する。	・総会、PTA活動の日、収穫祭での保護者の参加を促し、保護者中心の運営を行う。	総会、PTA活動の日、収穫祭で保護者の30%以上の参加を目標にする。	総会、PTA活動の日、収穫祭で保護者の30%以上の参加を目標にする。	総会、PTA活動の日、収穫祭で保護者の30%以上の参加を目標にする。	B	・各中学校に対し、魅力化事業の取組など松江農林の魅力は今以上に発信して欲しい。また、対象者を大人だけでなく幼児から高校生にも広げたり、生徒発の発信をして魅力を伝えてもらいたい。 ・各種メディアから松江農林高校の教育活動を目にするのは多い。できるだけ本校の独自性や特徴を地元新聞社やテレビ局、SNSなどを活用し、県民に伝えて欲しい。 ・PTA総会などではwebも利用して、参加を増やすことが重要だ。